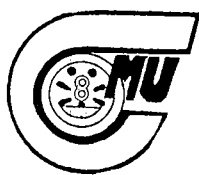


千葉動力車



No. 4420
96.7.11

脱退強要/有機溶剤/夏季輸送要員問題/スト体制で反撃を!

第三六回定期委員会 闘う二方針決意固める

七月八日、千葉市民会館において開催された第三六回定期委員会は、正念場に突入している国鉄決戦勝利にむけて固い決意をうち固めると同時に、断崖絶壁に立っているJR総連・革マルとの対決を中心に、木更津・幕張問題と夏季輸送の不当な要員操配をうち破るため、長期恒常的なストライキ体制を強め、いついかなる時でもストライキ

に起ち上ることを決定した。委員会は、山田交渉部長の開会のことばで始まり、議長に新小岩支部・並木委員を選出、来賓には勝浦市議として活躍している水野市議から激励と連帯の挨拶を受けた。また、中野委員長から「われわれの到達点と今後の決意」が力強く述べられた(要旨別掲)。

部側から提起され、真摯な討論を経て、正念場の闘いに挑む決意と態勢ががっちり固められた。方針や各発言で強調された点

中野委員長挨拶(要旨)
「負けてたまるか。動労千葉魂発揮し決着を求める新たな闘いへ」

断末魔のあがきともいう様相を呈している。こうしたなかで発生している列車妨害事件について、誰が何のために引き起こしているか誰もが知っているし、明白であろう。JR総連・革マルは「犯人は国労」「分割・民営化に反対する勢力」と吹きまくり国労や動労千葉、そして何百人もの労働者を敵に回すという大乱調に入っている。攻撃を見据え、一大反撃に転じよう。

十年間の苦闘からかちとった地平と確認にたち、JR総連・革マル・当局による新たな動労千葉破壊攻撃を粉碎するため総力で反撃に転ずる。そのうえで、不当労働行為断絶、労働安全の確立、夏季輸送にむけた要員操

分割・民営化から十年を迎えた。この間、数々の苦しい試練を持ち前の明るさと動労千葉魂で突破し、団結を堅持してきた。この確信に立って、「十年目」に決着をつける闘いに起とう。今、敵は誰が見てもガタガタである。二兆円問題、貨物・三島問題をはじめ解決しがたい問題が山積みしている。結局敵は、中心問題である動労千葉、国労解体攻撃を再び強めるしか方途がない。だが、革マルを抱え、利用してやってきたことが今になれば桎梏となっている。実に、

木更津、幕張問題、千葉転の要員操配等についても本質は異様な労務政策固執にある。スト体制を固め、いつでも起ちあがれる臨戦体制を築こう。支援する多くの人々に応えるためにも、我々こそ、ここ一番頑張ろうではないか。



当面のスローガン
「夏・秋への闘いのスローガンが決定された」
・長期ストライキ体制を背景に危機にたつJR総連・当局結託体制による動労千葉破壊を粉碎し、正念場の国鉄闘争に組織の総力あげて起ち上がろう。
・国鉄闘争と安保・沖繩闘争を結合し、大失業と戦争の時代をはね返す労働運動の新しい潮流を大きく発展させよう!

配問題、列車妨害事件弾劾を当面の課題の焦点にすえ、夏から秋にむかって、全支部で総決起していくということである。
出された主な意見・質問
・JR貨物の「将来展望」について。
・「九年度問題」についての推移と闘いについて。
・五五才以上の「対策」について。
・助勤のあり方について。当局は目的・期限すらも曖昧にしている。厳しく追求すべきだ。
・年間通じての要員不足が生じている。この打開のために闘うべきだ。
・ストで反撃に立つことは賛成である。そのうえで、スト通知等についてなどの、積極的意見が出され、本部側から夏から秋への方針に沿って、それを補強するものとして答弁され、満場一致で確認された。

新しい10万人合理化粉碎? 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!